

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201161		
法人名	㈱アース コミュニティセンターももの家		
事業所名	グループホームもも		
所在地	清水区有東坂3-5		
自己評価作成日	H27.1026	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年	11月4日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のお気持ちに添ったケアに心がけ、余裕のある対応をし、居心地良く過ごして頂ける空間をつくっています。
スタッフが一人一人信頼され、家族に近い存在になれたらと思いつつながら接させて頂いています。
のんびりと、強制されずご自分のペースをできるだけ崩さず暮らせる様にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は利用者がパターンにとられず個々のリズムをくずさず家庭にいるような環境で過ごしてもらいたいと職員に伝え職員は業務は大事であるが「自分がされたいやだ」と思うことはせず、介助の方法、工夫を常に考え個々の利用者に柔和で穏やかな対応で関わるように努めている。利用者・家族等から聞いたことや表情等で気付いたことをフォーカス記録し計画に繋がるようにしている。
2地区の自治会長が運営推進会議に参加し、民生委員や近所の商店主、大家からの情報で地域のボランティアがフラダンス・楽器演奏・クラウン(道化師)等で訪れ、近くの幼稚園児との交流も始まっている。居間の窓から裏の公園が見られ多数の桜の木が咲く頃は毎日花見を楽しめる眺望の良さである。利用者は天気を見て毎日散歩に出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し共有を実践している。毎朝、理念の合唱をし皆で共有し業務 活動の確認をしている	職員は法人の理念と事業所の理念・目標を毎朝申し送り時に利用者の前で唱和し理解している。不適切な対応が見られた時はお互いに注意するようにし、対応方法について月1回のミーティング時に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動の参加、地域交流、事業所の催し等の活動に努め交流させて頂いています	5月に就任した管理者は地域との交流に力を入れ、地域の清掃に参加し利用者の作った雑巾を自治会に寄付している。近所の和菓子店や大家さんから情報を得てフラダンス・楽器演奏・クラウン(道化師)等のボランティアが訪問している。近くの幼稚園児との交流が始まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を始め、近隣のケアマネージャとの交流をはかるために年に数回座談会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2か月に1回開催しておりテーマをきめ研修や交流し意見交換でできたことの改善策を職員会議で話し合いサービス向上に努めている	利用者・家族・2地区自治会長・民生委員・地域包括職員の参加があり開催している。市から講師を呼び認知症についてや防災ボランティア協会から講師を招き地震について等講習会をし意見交換を行っている。欠席家族への議事録配布はない。	多数の家族の理解が得られ、参加を募るためにも議事録の配布をし、より良い会議になれるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の出席を市役所担当者始め地域包括支援センターにお願いしている。サービス内容の確認時に相談し協力体制を図っている	地域包括支援センターの主催で2ヶ月に1度虐待やグループホームの家族との接し方などの研修があり、管理者が参加している。包括職員に困難事例等対応の相談をし適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し職員全員が理解しケアを行っている気の付いた事例はその都度話し合い内容を記録し職員全員が共有している	法人の身体拘束委員会に職員が数名参加し、月1回のミーティング時に報告している。拘束をせず転倒防止のため低床ベッドにする等工夫をしている。夜中に動き出して心配のある人に見守りを強化したいが夜勤者1人で困難である等常に問題の提起と対応方法の話し合いをしている。	

静岡県(グループホームも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促しミーティング時に利用者のケア内容を見直し人権尊重について話し合う機会をもっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用できるように管理者は研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解納得がしていただけるように説明を行い不明な点や疑問にはいつも対応していただけるよう配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望をいただく機会を設けると共に面会や電話連絡等にもご意見を伺うようにして改善策を検討している。当日内容は全ご家族にお伝えしている	管理者は家族に「何でも言って欲しい」信頼関係を作っていきたいと面会時に声掛けし意見要望を聞くようにしている。「子供と接する機会を増やして欲しい」意見に近くの幼稚園児との交流を始めるようにした。聞いたことはフォーカス記録に記入し反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行い内容は記録し職員全員で共有できるようにしている	管理者は日常的に職員に報告・連絡・相談の徹底を伝え、意見は言い易い環境である。職員はまずリーダーにケアの仕方の提案や意見を言いリーダーから管理者に報告している。意見・気付きは記録し、月1回のミーティング時に話し合って反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間には残業ゼロを徹底している。職員の状況を把握してそれぞれの評価が行なわれ個々の力が発揮されるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加しモチベーションが上がるように努めている		

静岡県(グループホームもも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの事例検討会やケアマネ事例検討会等の活動に参加して情報交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きしましたご本人の要望や意見を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時からご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事ができるように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームで対応できないサービスがご本人ご家族に必要な場合はご本人、ご家族が必要としているサービスの情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等を行う時はともに楽しむ事ができるように入居者と介護職員が話し合いをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回生活状況の報告を御家族に郵送している衣替えの時期やご家族の協力が必要な時は協力をいただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては御家族からの協力や情報からいつでも面会できるようにしている。外出、散歩等は慣れ親しんだ場所に行っている	初回訪問者の面会は家族に伝え確認を得てから受け入れるようにしている。近所の知人・学友・元職場の人など訪ねてくる時に継続して来て貰えるよう職員はお茶を出したり一緒に会話に入る等支援をしている。馴染みの理容室に家族が連れて行っている人がいる。	

静岡県(グループホームも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活ができ他の利用者との交流がはかれるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも、ご本人、ご家族また関係者からの相談や支援をおこなうようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに耳を傾け思いの実現や維持ができるように努力している。安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めている	利用者は入浴時や散歩時などにやりたいことや食べたい物、昔話等を話してくれる。会話で伝えるのが困難な人は日常的に観察し嫌な表情が見えた時声掛けで肯定的な表情になったこと等フォーカス記録し全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時からご本人、ご家族、または関係者から情報を得るように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人家族。かかわっている関係者から情報を得よう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意見を聞き医療関係者、介護職員の日常観察や意見等を取り入れケアプランを作成しご本人、ご家族に説明し承諾を得ている	日常観察を元にフォーカスチャーティング記録を見て、毎月ミーティング・カンファレンスを行っており、本人・家族の意見を聞き、往診時の医師の指示・訪問看護師の意見・職員の意見を取り入れ計画を作成し家族に説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャーティング記録を行い情報を共有している		

静岡県(グループホームも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズにこたえることができるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流ができるように次々回の行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望を重視。それぞれのかかりつけ医との連携を図り心身ともに健康な生活が維持できるように努めている	以前からの主治医に事業所からの診療情報を持参し家族が同行で受診している人もいるが概ね協力医に変更していて、月2回の往診と緊急時の往診を受けている。週1回の訪問看護師の早期対応で状態が落ち着いている。歯科受診は家族と一緒にいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況等を看護師に伝え相談がすぐに出来、適切な受診が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係者と連携しご家族を含めた情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化についてご本人、ご家族の意向を確認し終末期や重度化での対応について説明し承諾をいただきかかりつけ医、訪問看護師の協力、連携を行いながら取り組んでいる	利用時に看取りの指針を提示し、本人・家族の同意が得られることを条件に事業所内での提供を検討する旨を説明している。意向の確認を重ね、状態が悪くなった時、医師の指示に従い看取り計画を立て家族や看護師の協力を得て支援するようにしている。職員は最後まで見てあげたいと真摯に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応策は掲示している。カンファレンス時に再度確認や研修・防災訓練などに参加して対応できるように努めている		

静岡県(グループホームもも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年3回の防災訓練を利用者と共に行う。地域の防災訓練にも参加。運営推進会議時にも報告や情報交換を行っている	7月・10月・2月の暑い時・寒い時の気候で地震・水害(裏の公園の池が溢れる)の訓練・夜間火災を想定した訓練など行っている。年1～2回消防署に来てもらい避難方法やAEDの使用方法など指導を受けている。2地区自治会長は協力的であり連絡網がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視してケアを行っている	職員は「自分がされたらどうだろう?」と考え相手の気持ちになってのんびり焦らせない落ち着いた対応するように心がけている。居室に入室の際にノックをし声をかけてから入る等プライバシーの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思いが言える自己決定ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のお気持ちを重視して安心、安全に日々を送る事ができるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して、ご本人のお好みのヘアスタイル、カラーをしている。着替え時の洋服選びはご本人が行なっているか聞きながら職員と選ぶ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房が調理しているが、月に数回は利用者と話し合い献立をたて調理する機会を設けている	水・日曜日は職員が3食作り、できる人が盛り付け等手伝っている。メニューは利用者の「パンとシチューが食べたい」など希望を聞き、取り入れるようにしている。本日の献立を白板に利用者が書き、食前に読み上げている。職員は手弁当を皆と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や量を提供し食事・水分摂取量が把握できるように記録している		

静岡県(グループホームもも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら起床時。就寝時、毎食ごの口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、その人にあった介助を行っている	布パンツで自立の人もいるが、概ねリハビリパンツにパッドを使用し職員の誘導でトイレでの排泄をしている。強引な誘導は気持ちを焦らせてしまい利用者にとってダメージを与えると職員は時間をずらすなど個々に副った対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や散歩や運動を行い、できる限り自然に排便ができるように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行っている。更衣室、浴室等の温度管理には気をつけています	日曜日以外の10時～15時に入浴するようにし、同姓介助希望も叶えられている。重度化に伴い1階のデイの機械浴を利用する人もいるが、2人介助なるべく個浴槽での入浴を続けられるよう支援している。拒否される人に「さっぱりするよ」など声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さないように、ここにあった休憩時間が確保できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人一人のファイルにいれ服薬の把握、服薬中の為留意点等を把握できるように努めている。薬に変更があった場合は申し送りノートと申し送り時に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物や肩図家、配膳、盛り付けメニュー書き、清掃、無芋の灯個々に意欲的に参加できることを行っている		

静岡県(グループホームも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日以外でも、毎日公園に散歩にでかけて月に数回車で外出している。買物を希望している時は皆さんと出かける時もある。必要時には家族の協力をいただいている	近くの薬局・本屋・百円ショップなどに買い物に出かけている。車椅子対応の車で日本平・久能山など2時間以内で行ける場所へは頻繁にドライブで行っている。家族と外食・親戚の家・お墓参りや結婚式に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、家族に協力をお願いして、金銭を所持することができている。外出時には好きなものを購入する機会がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が自ら電話したり、家族、友人等の電話を受け継いだりの支援を行っている。手紙も同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは自然の光が入りまた、外の公園の木や池の景色を楽しむ事ができる。花や植物などを置き、ゆったりと過ごす時を大切にしている	利用者手作りのカレンダーや月ごとに変わる飾り物で季節や日時などが分かる。居間・廊下の壁にイベントの写真が飾ってあり、話題の材料になっている。管理者は温度や湿度・換気・整理整頓に注意している。花壇・畑の整備をし生花を見て和めるように、野菜は食卓に載せている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる。ソファや椅子にゆったりと過ごす時間を大切にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、慣れた家具や寝具、すきな物を置いて頂いている	整理ダンス・エアコン・ナースコール・洗面台の設置があり、居室担当者が衣類や寝具の入れ替え整理・清掃をしている。ぬいぐるみ・仏壇・写真・机・椅子などは動線を確保し隅に置くようにし、居室で安全に過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠なく階段なども自由に昇降できるようにしている		